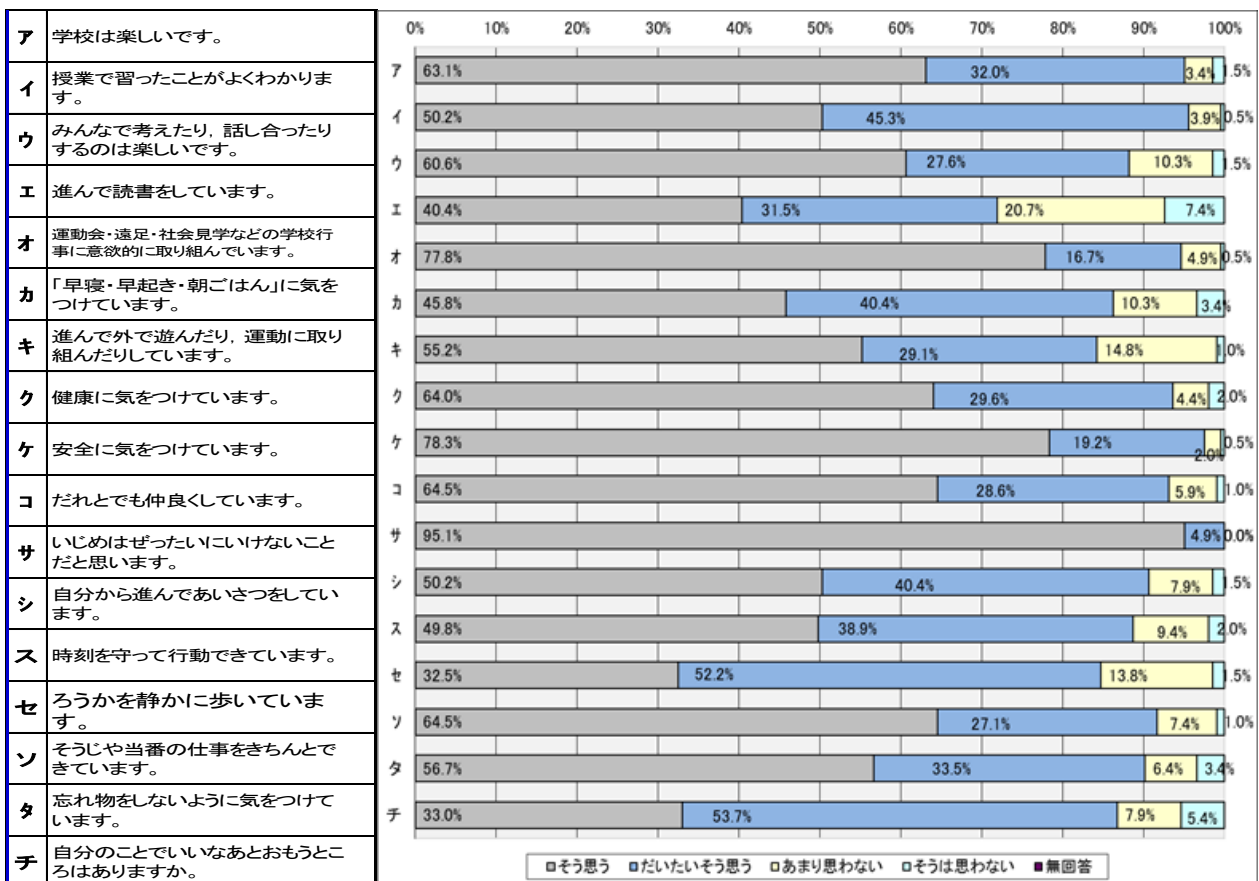




橋北小学校  
学校だより  
No.38  
H30.2.26

12月に、保護者の皆様にご協力いただきました学校教育活動アンケートの結果をお知らせいたします。児童アンケート及び保護者アンケートの結果は、今後の学校改善に役立てていきます。

【平成29年度 児童アンケート結果】



【児童アンケートの考察及び今後の取り組み】 \* ( )内は、昨年度比

回答の選択肢は、A：「そう思う」、B：「だいたいそう思う」、C：「あまり思わない」、D：「そうは思わない」です。チ「自分のことでいいなあと思うところがありますか。」については、A：「ある」、B「すこしある」、C：「あまりない」、D：「ない」です。

ア 「学校は、楽しいです。」

A, Bの回答を合わせて95% (-1ポイント)と、昨年度とほぼ同程度の高い数値となりました。楽しく学校に来ることができる良い状態が、2年続けられていることは大変うれしいことです。しかし、約5パーセントの子どもたちがC, Dと回答しています。今後も一人ひとりの子どもに目を向け、すべての子が楽しく学校に来られるようにさらに取り組みを進めてまいります。

イ 「授業で習ったことがよくわかります。」

ウ 「みんなで考えたり、話し合ったりするのは楽しいです。」

A, Bの回答を合わせてイは、96% (+2ポイント、一昨年度と比べると+4ポイント)でした。基礎基本の習得という点では、年々良くなってきています。ウは、88% (-7ポイント、一昨年度+2ポ

イント) でした。子どもたちが熱中できる課題・継続して考える意欲をもてる課題を設定するなどの工夫をして、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な「問題解決能力」を育成することに、なお一層取り組んでいきたいと思ひます。

#### エ 「進んで読書をしています。」

A, Bの回答を合わせて72% (-8ポイント) でした。昨年度、朝の「さわやかタイム」での読書は、週二日でした。しかし、「さわやかタイム」には、読書週間・かけ足週間のように一定期間毎日取り組むものがあったり、ラジオ体操や校歌の練習のように運動会前に何日か取り組むものがあったりします。そこで今年度は、曜日ごとに学習内容を決めず、読書と共に漢字・計算などを各学年で状況に合わせて取り組んできました。読書週間でない週には、漢字や計算に集中して取り組む週を作るなどしました。そうした中で、読書時間を十分確保できなかったことが一つの要因かと思ひます。来年度に向けて「さわやかタイム」の再検討とともに、まずは隙間時間に読書を進めるなど教師からの声かけにより、日常の中に読書に親しむ環境を作っていきたいと思ひます。

#### キ 「進んで外で遊んだり、運動に取り組んだりしています。」

A, Bの回答を合わせて84% (-7ポイント) でした。行事や委員会の活動(発表など)が近づいたときに、休み時間にも練習をすることがあります。また、総合的な学習など各クラスで力を入れて取り組んでいるときに、休み時間にも取り組みを継続することもあります。そういった点において、休み時間に十分に遊べていないと感じているかもしれません。休み時間を確保した上で、子どもが遊びを考えてクラス遊びをしたり、教師が外遊びを意識して声かけをしたりしていきたいと思ひます。

#### コ 「だれとでも仲良くしています。」

#### サ 「いじめはぜったいにいけないことだと思ひます。」

サは、A, Bの回答を合わせて100% (+1ポイント) でした。学校・保護者・地域での人権教育の取り組みの成果だと思ひます。コは、93% (-4ポイント) でした。今後も、一人ひとりの様子をしっかりとらえて、仲間作りの取り組みを進めていきたいと思ひます。

#### シ 「自分から進んであいさつをしています。」

#### ス 「時刻を守って行動できています。」

#### セ 「ろうかを静かに歩いています。」

それぞれの項目のA, Bの回答を合わせると、以下のようでした。

シは、91% (-5ポイント)

スは、89% (-8ポイント)

セは、85% (-3ポイント)

この3つの項目は、子どもたちに示している「スーパー橋北っ子」の5つの目当てと重なっています。(キの運動もです) 下がっている原因の一つに、「スーパー橋北っ子」を意識させる取り組みが弱かったということがあるかもしれません。各項目それぞれに日ごろから指導していくことはもちろんですが、「スーパー橋北っ子」を意識させていくことにも再度取り組んでいきたいと思ひます。そのために、毎月の代表委員会の中で生活を振り返り、重点項目を考えさせ、放送やポスターで知らせるなどの取り組みを始めています。

#### チ 「自分のことでいいなあとおもうところはありますか。」

A, Bの回答を合わせて87% (+6ポイント) でした。2年前が68%, 3年前が73%で、本校児童にとって特に力を入れて取り組むべき項目だと思ひて取り組んでまいりました。学校では、「分かった」「できた」という経験がどの子にも増えるように取り組むことや、どの子も良さが発揮できるように行事や異学年との交流・地域の方との交流など様々な活動の場を作ったり工夫したりすることを心がけてきました。ご家庭でも、お子さんの良いところや良くなったところを認めるなどしていただいたのではないのでしょうか。今後も、すべての児童が一つは自分の良いところが言えるように取り組んでまいります。